☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

授業科目	精神看護学概論		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時間（単位）	30時間（1）
担当者	①教官☆ ②看護師			
科目目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念が理解できる 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解できる 3. 精神看護の対象及び看護の目的が理解できる 4. 精神看護におけるリスクマネジメントが理解できる			
回	主題	授業内容	授業形態	担当
1	精神の健康	1. こころの健康について 2. 精神看護学の基本的な考え	講義	①
2	暮らしの場と精神の健康	1. 人と集団 2. 社会の変化とメンタルヘルス 1) 社会の変化とこころの関連 2) 社会の変化と病理の関連 3. 社会の偏見（スティグマ）	講義	
3	脳とこころ	1. 脳の構造と働きからみたこころ 2. こころの機能からみたこころ 3. こころの構造 4. 欲求	講義	
4	こころの防衛機制	1. ストレスとコーピング 2. 防衛機制の種類	講義	
5	こころの危機と危機介入	1. こころの危機と危機介入 1) 成熟的危機 2) 状況的危機 2. 危機に関連する理論 3. リカバリーとその支援	講義	
6	人格の発達と情緒体験	1. 対象関係論 2. 母子関係と情緒体験による人格の発達	講義	
7	人生各期の発達課題	1. ライフサイクルとストレス 2. ライフサイクルにおける特徴と危機 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 思春期 4) 青年期 5) 成人期 6) 中年期 7) 老年期	講義	
8	現代社会とこころの問題	1. 現代社会の特徴 2. 現代社会とこころの問題 1) 自殺、その要因と背景 2) 自傷行為	講義	②
9		3) ひきこもり 4) 不登校		

		5) DV 6) 児童虐待 7) 職場におけるハラスメント 8) 心身症 9) 依存症 3. 現代社会と「生きづらさ」		
10	家族とその支援	1. 家族について 2. 現代社会における家族関係 3. 精神疾患と家族	講義	
11	精神保健医療福祉の歴史	1. 諸外国における精神医療 1) 古代から中世 2) 近代 2. 日本における精神医療	講義	
12	精神看護に関する法制と社会資源	1. 精神保健福祉法 2. 障害者総合支援法 3. 障害者雇用促進法 4. 成年後見制度 5. 医療費の助成、障害者年金 6. 精神障害者保健福祉手帳 7. 精神科訪問看護	講義	
13	看護師のストレスマネジメント	1. 看護師の経験するストレス 2. ストレスマネジメント 3. 精神看護にかかわる資格認定	講義	
14	看護の倫理と人権擁護	1. 強制入院・身体的拘束について ディスカッション	演習 講義	
15	単位認定試験 (45分)			①
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・精神看護学1 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版			
備考				

科目名	精神看護方法論		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時期(単位)	30時間(1)
講師名	①外部講師			
科目目標	1. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護を理解する 2. 精神障害を持ちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	主な症状に対する 看護	1. 治療の場としての精神科病棟 1) 入院する精神障害者がもつ特徴 2) 精神科病棟での入院治療 3) 入院生活における環境調整 4) 治療的環境の整備	講義	①
2		2. 精神障害をもつ人の看護 1) 主な精神症状 (1)意識の障害 (2)注意の障害 (3)知覚の障害 (4)記憶の障害 (5)知能の障害 (6)思考の障害		
3		(7)感情の障害 (8)意志や意欲の障害 (9)自我意識の障害 (10)身体的訴えや行動面に現れる 精神症状		
4		2) 統合失調症 (1)診断と特徴 (2)症状 (3)治療 (4)看護の視点		
5		3) 気分〔感情〕障害(双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群) (1)分類と特徴 (2)症状 (3)検査・治療に伴う看護 (4)看護の視点		
6		3. 神経症状をもつ人の看護 1) 不安障害 2) 強迫性障害(OCD) 3) ストレス反応および適応障害 4) 解離性障害(転換性)障害 5) 身体症状および関連症群		
7		4. 物質関連障害および嗜癖性障害群 1) アルコール症 2) ゲーム障害・ギャンブル障害		

8		<p>5. 各発達段階であらわれやすい精神障害を持つ人の看護</p> <p>1) 知的能力障害／知的発達障害</p> <p>(1) 自閉スペクトラム症(HSD)</p> <p>(2) 注意欠如・多動症(ADHD)</p> <p>(3) 限局性学習症(SLD)</p> <p>2) てんかん</p> <p>3) 摂食障害</p> <p>4) パーソナリティ障害</p>		
9		<p>6. 認知症の状態にある患者の看護</p> <p>7. その他 精神障害を持つ人の看護</p> <p>1) 睡眠障害</p>		
10		<p>1. 診察・看護に伴う看護</p> <p>1) 診療・検査における看護師の役割</p> <p>2) 脳波 3) 脳脊髄液検査</p> <p>4) 心理検査</p>		
11	<p>診療・検査および治療に伴う看護</p>	<p>2. 薬物療法に伴う看護</p> <p>1) 精神科における薬物療法の特徴</p> <p>2) 抗精神病薬服薬中の看護のポイント</p> <p>(1) ジストニア</p> <p>(2) パーキンソン症候群</p> <p>(3) アカシジア (4) 悪性症候群</p> <p>(5) 抗コリン作用に伴う症状</p> <p>(6) 内分泌・代謝系症状</p> <p>(7) 精神症状(イライラ感など)</p>		
12		<p>3. 電気けいれん療法を受ける患者の看護</p> <p>1) 適応 2) 治療に伴う看護</p>		
13		<p>4. 身体疾患と精神症状</p> <p>1) 膠原病(SLE、ベーチェット病)</p> <p>2) 心疾患(冠動脈疾患、心不全)</p> <p>3) 糖尿病 4) 甲状腺疾患 5) がん</p> <p>5. 精神療法を受ける患者の看護</p> <p>6. 社会療法を受ける患者の看護</p>		
14	<p>リハビリテーション療法の展開(地域での暮らしを支える)</p>	<p>1. リハビリテーション療法と地域精神保健</p> <p>1) デイケア(SST)</p> <p>2) 訪問看護</p> <p>3) 就労支援</p> <p>4) ピアサポート</p> <p>2. 地域生活(移行)支援体制</p>		

15	単位認定試験(45分) まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・精神看護学2 精神障害と看護の実践 メディカ出版			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

授業科目	精神看護学演習		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時間（単位）	30時間（1）
担当者	①外部講師 ②教官☆			
科目目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要なかかわり方を理解する （プロセスレコード） 2. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる 3. 対象とのかかわりについて振り返り方法を理解する 4. 精神看護に特有な援助技術を理解する			
回	主題	授業計画・内容	授業形態	担当
1	プロセスレコード	1. プロセスレコードとは 1) プロセスレコードの書き方 2) プロセスレコードの読み方 3) プロセスレコードによる振り返りの実際	講義 個人ワーク グループワーク	①
2				
3				
4				
5				
6	看護過程の展開 統合失調症患者 (回復期～慢性期)	1. 事例提示 2. 精神看護における情報整理とアセスメントの視点 成育歴（発達段階・家族構成や関係）、 現病歴（経過、症状の程度） セルフケア（生活習慣、服薬行動、余暇活動、 金銭管理）、ストレスへの対処方法、 病識や病感 家族（キーパーソン）との関係性、 家族の患者に対する思いと疾患の理解		②
7				
8				
9				
10				
11				
12	4. 個別性を踏まえた具体策 患者の健康的な側面や強みを活かした 具体策、セルフケアへの支援、 地域生活に向けての支援、家族への援助			
13				
14	5. 個別性を踏まえた看護 場面設定に合わせた看護			
15	6. まとめ			

評価方法	プロセスレコード、課題
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学1 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・精神看護学2 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 ・基礎看護学(2) 基礎看護技術I 医学書院
備考	

実習科目	精神看護学実習	対象学生・時期	2年生・前期
		講義時間(単位)	90時間(2)
実習目的	精神の健康障害を持つ対象とその家族を理解し、精神の健康を回復するための援助ができる。また、対象とのかかわりを通して、精神の障害を持つ対象と家族への看護ができる基礎的能力を養う。		
実習目標および内容			
<p>1. 精神に障害のある対象とその家族を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の成育歴や社会歴をふまえた心理的・社会的発達について述べられる。 2) 対象の健康障害や入院生活・治療が日常生活に及ぼす影響を述べられる。 3) 対象の病態・症状・治療・検査について述べられる。 4) 安全・安楽の妨げとなる有害事象について述べられる。 5) 対象や家族の入院、社会復帰に対しての思いや課題について述べられる。 <p>2. 看護師に必要な治療的かかわりについて理解し、セルフケアに応じた援助が実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の日常生活行動のセルフケア能力をアセスメントできる。 2) 精神症状への影響を及ぼす要因についてアセスメントできる。 3) 対象の看護上の問題を明確化し、看護目標を設定できる。 4) 対象の健康的な側面、強みを活かした具体的な計画が立案できる。 5) 対象のペース・セルフケア能力を活かした日常生活援助ができる。 6) 対象の反応から実施した援助の振り返りができる。 7) 対象の社会復帰に向けた自己管理の方法について支援することができる。 8) 対象との関わりを通して患者 - 看護師関係の構築について振り返りができる。 9) 看護場面の再構築を通して、自己洞察ができる。 10) 対象の状況に応じた安全を守る技術が述べられる。 11) 対象の権利を擁護し、責任ある行動がとれる。 <p>3. 精神に障害のある対象に活用できる社会資源について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉法における医療に関する法的根拠を説明できる。 2) 精神保健医療福祉に関する社会資源と多職種連携について説明できる。 <p>4. 看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にして改善できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2) 主体的・効果的に学習できる。 			
評価方法	評価表による評価		